

# 高成長軌道回帰の起爆剤となるか —インドのインフラ整備計画

株アジアにじゅういち  
代表取締役 白水和憲

この数年、インドはリーマンショックや欧州財政危機の影響による世界的な経済停滞の波に飲み込まれ、「やはり“デカップリング論”<sup>\*</sup>は通用しなかったか」と肩を落とす政府関係者も多かった。しかし、減速はしても、経済成長の歩みは決して止まっているわけではなかった。

<sup>\*</sup>「新興国は米国の経済停滞の影響を受けず、堅調な成長を遂げて世界経済を牽引する」という理論

今年1月半ばから世界銀行（WB）、国際通貨基金（IMF）、国連（UN）が立て続けに世界経済見通しを発表した。その中でインドの経済成長率（2012年→2013年）は、5.1%→6.1%（WB）、4.5%→5.9%（IMF）、5.5%→6.1%（UN）とし、回復基調を鮮明にした（下表）。2005～2007年に3

年連続で9%台の高成長を果たしたところに比べれば見劣りするが、低成長から脱しきれない先進国からすればうらやましい数字である。

昨年12月下旬、マンモハン・シン首相を議長とする国家開発会議（NDC）は、第12次5カ年計画（2012～2017年）の最終案を承認した。当初、平均成長率目標は9%だったが、2011年と2012年の経済実態を反映して、最終的に8%に落ち着いている。特に、同計画に盛り込まれているインフラ整備計画（56兆3200億ルピー）はインド経済を支え、飛躍させる環境づくりのプロジェクトとしても期待が高い。国内外の企業にとってもビジネスチャンスとなる。

インドが以前のような高成長軌道に戻るために、経済活動の基盤となるインフラ整備は欠かせない。インド経済とインフラ整備の今を見てみよう。

経済成長予測（暦年）

単位：%

	世界銀行	IMF	国連	
世界全体	2011年	2.7	3.9	2.7
	2012年	2.3	3.2	2.2
	2013年	2.4	3.5	2.4
ユーロ圏	2011年	1.5	1.4	1.5
	2012年	▲0.4	▲0.4	▲0.5
	2013年	▲0.1	▲0.2	0.3
アメリカ	2011年	1.8	1.8	1.8
	2012年	2.2	2.3	2.1
	2013年	1.9	2.0	1.7
日本	2011年	▲0.7	▲0.6	▲0.7
	2012年	1.9	2.0	1.5
	2013年	0.8	1.2	0.6
中国	2011年	9.3	9.3	9.2
	2012年	7.9	7.8	7.7
	2013年	8.4	8.2	7.9
インド	2011年	6.9	7.9	6.9
	2012年	5.1	4.5	5.5
	2013年	6.1	5.9	6.1

【出典】 The World Bank、IMF、UN/DESA、UNCTAD

## インド経済の短所はインフラ不足

「高止まりするインフレを抑制しようと、度重なる利上げで対応してきたインド中央銀行（RBI）の金融政策は効果がなかった。経済成長も減速した。一刻も早く金融緩和して欲しい」。一向に回復しない経済に対する企業の怨嗟<sup>えんさ</sup>の声に押されたのか、RBIはこの1月29日、昨年4月以来9カ月ぶりに政策金利（レポ金利、年8%）を0.25ポイント引き下げて年7.75%とした。

それは金融緩和を待ちわびる国内外の企業からは歓迎されたが、自動車業界からは「この程度の